

静岡県遺族会「陽だまり会」が追悼式に参加



参列者による献花



殉職隊員の冥福を祈る弔銃

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、11月11日（土）、陸上自衛隊板妻駐屯地（御殿場市）で行われた「静岡県自衛隊殉職隊員追悼式」における静岡県自衛隊遺族会への支援を実施した。

当日は曇りつつない清々しい青空のもと、同駐屯地司令・山之内竜二等陸佐を執行者として、隊員遺族13人及び来賓の参列を得て厳粛かつしめやかに執り行われた。

式は隊員による儀仗や来賓の追悼の辞、参列者による献花と進み、式が進行するにつれ遺族はありし日の大切な家族との思い出に思いを馳せている様子であった。

殉職隊員の冥福を祈る弔銃で式は終了し、その後行われた会食では、きれいに雪化粧をした富士山を仰ぎ見る会場において遺族を代表し遺族会長・平松玲子氏が、式典への感謝と災害派遣等で昼夜終わることのない任務を黙々と遂行する隊員を労う謝辞を述べた。

また、追悼式後には神奈川県箱根町のホテルに場所を移し「静岡県自衛隊遺族会総会」を開催した。会員から「同会に愛称を付けたい」との提案があり、議論を交えた結果「陽だまり会」と親しみやすい新たな愛称が採用された。

同会が会員にとっていつまでも日が差し込み続ける暖かい場所であるように、静岡地本も今まで以上に遺族に寄り添った暖かな支援を続けていく。

専門学校の「就職企業ガイダンス」で魅力をPR



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、11月16日（木）、専門学校静岡工科自動車大学校（静岡市）の校内で行われた「就職企業ガイダンス」に参加した。

このガイダンスは、来年度卒業予定の学生を対象に2日間、午前と午後の計4部で行われ、防衛省・自衛隊をはじめ自動車関連企業など61団体に参加した。

静岡地本はガイダンスを3回行い、将来自動車整備士を目指す19人の学生に対して、自衛隊の概要や自動車整備士など各職種の仕事内容、採用試験の要領について説明を行った。

説明の中で、自衛隊が保有している装備品などの予防整備や故障整備は隊員自ら実施しており、現在整備能力を高めている同校学生に対して「今勉強している知識や技能を活かして即戦力として活躍できるとともに、国に貢献できるのが自衛隊」と魅力をアピールした。

説明を聞いた学生からは「陸上自衛隊の武器科についてもっと話を聞きたい」「自分が勉強している知識や技術が活かせることを知るとても有意義だった」などの前向きな感想が聞かれた。

静岡地本は、今後もこのような機会を積極的に活用して、防衛省・自衛隊という仕事の魅力を多くの学生に伝え、優秀な人材を確保できるよう努めていく。

「静大祭」に静岡地本が初参加



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、11月17日（金）から19日（日）にかけて静岡大学（静岡市）において行われた「第68回静大祭」で、静岡県防衛協会の協力を得て、初の広報活動を校内で実施した。

このイベントは、学生が行うさまざまなパフォーマンスや展示を主体とした「静大祭」のほか、農学部が担当する「農学祭」、社会に対して教育・研究・社会連携活動をアピールする「キャンパスフェスティバル静岡」などが同時開催され、約8千人が来場し大きな賑わいをみせた。

静岡地本は毎年多くの静大生が自衛隊に志願していることから自衛隊ブースを開設し、見学に来た学生に対しパネルを使って自衛隊の災害派遣活動の様子を説明するとともに、学生や社会人でも訓練を経て自衛官として社会に貢献できる「予備自衛官補」制度や自衛隊の職種領域など大学生が応募できる自衛官の制度を中心に説明し、「自衛隊員」という仕事の重要性和幅の広さを伝え自らの可能性が無限に広がる自衛隊をアピールした。また、併せて迷彩服試着体験、背囊やヘルメットなどの個人装備品の装着体験も行い、隊員が普段訓練で使用している実際の装備に触れることで自衛隊を身近に感じてもらった。

学生からは「学生をしながら社会に貢献できる予備自衛官補の制度で活躍したい」「幹部になるには防衛大学校に入学するしかないと思っていたが、一般大学からも幹部になれる制度があると初めて知った」といった声が聞かれた。

静岡地本は、今後も大学祭などに積極的に参加し学生に直接説明する機会を設け、自衛隊の魅力をより多くの学生に伝え「進路の羅針盤」となるよう努めていく。